

東京未来大学 通信教育課程「身につけるべき学士力」一覧表

東京未来大学 通信教育課程では、卒業までに各学部のプロフィールに掲げる学士力が身につくことを考慮し、カリキュラムを構成しています。学士力とは「卒業までに学生が最低限身につけなければならない能力」を表しており、本課程では下表の通り定めています。

分類	種別	区分	項目1	番号	項目2	
一般教育科目において身につけるべき「学士力」	汎用的スキル	A	自分たちの文化・異文化を理解し認める力（受容性）	1	文化・社会と自然に関する知識を理解できる。	
				2	意見や立場の違いを理解し、受け入れることができる。	
		B	常に学び、向上を続ける態度（生涯学習力）	3	卒業後も自律・自立して学習できる。	
				4	目標を設定し、自ら進んで取り組むことができる。	
		C	情報収集・分析・解釈・表現・発信する力（課題を解決する力）	5	問題を発見し、必要な情報を収集・分析・整理し、解決できる。	
				6	獲得した知識・技能を総合的に活用し、課題に適用し、解決できる。	
				7	情報を構造化し、分析・評価・統合し、論理的に活用できる。	
		D	創造し表現する力（創造力）	8	自然や社会的現象について、様々な表現方法を用いて分析し、他者に伝達できる。	
				9	情報や知識を多角的・論理的に分析し、表現できる。	
				10	既存の知識を活用して、新しい価値（アイデア、生産物、方法等）を生みだせる。	
キャリア科目において身につけるべき「学士力」（通学課程のみ）	汎用的スキル	E	コミュニケーションの力、協働する力（社会性）	11	自分の意見をわかりやすく伝えることができる。	
				12	相手の意見を丁寧に聞くことができる。	
				13	多様なメディアを主体的に利用し、他者と連携できる。	
				14	他者と協調して行動できる。	
				15	他者に目標や方向性を示し、その実現のために行動できる。	
				16	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解できる。	
		F	社会の一員として責任ある行動をする力（市民性）	17	自己の良心及び法規範・社会のルールに従って行動できる。	
				18	よりよい社会を実現するために、自らの資質を活かして積極的に社会に関与できる。	
		G	自己を統べる力（倫理観）	19	自らを律して行動できる。	
				20	状況や変化に沉着な対応を行い、適正な行動ができる。	
専門教育科目において身につけるべき学士力	こども心理学部	H	心理学の知識・技能を理解する力	21	統計的なデータを読み取り、科学的根拠を用いて説明できる。	
				22	子どもの多様な発達プロセスを科学的にとらえることができる。	
				23	人の行動や言葉の深い意味を理解できる。	
				24	心理学的な枠組みで人間の心の働きを理解できる。	
		I	人間理解を深める力	25	行動や感情の自己管理ができる。	
				26	他者の立場に立ち、共感的に理解し関わることができる。	
				27	全体を俯瞰しながら、他者の置かれた状況を的確に判断し、適切な援助ができる。	
				28	他者の立場を理解し、尊重しつつ、自分の意見も主張できる	
				29	状況に応じた社会的スキルを身につけている。	
	30			自らの感情や心の状態を理解し、調整することができる。		
	モチベーション行動科学部	専門的スキル	J	保育・授業場面で活かせる力	31	子どもの行動に対して、すばやく応じることができる。
					32	場面に必要な表現ができる。
					33	月案・週案・保育教育指導案等の計画を作成できる。
					34	月案・週案・保育教育指導案等の計画に基づいた実践ができる。
					35	円滑に担当クラスの運営を行える。
					36	保育・教育に必要な教材を創造・開発できる。
					37	実践に基づいた正確な記録を作成し、記述できる。
					38	自身を含めた保育・教育者の実践に対して適正な評価を行える。
K	職能に限らず、専門的知識・技能を活用する力	39	多様な情報を収集し、分析できる。			
		40	子どもの行動を把握し、分析・考察できる。			
		41	子どもの成長・発達に対して適正な評価が行える。			
		42	場面での環境を把握し、場面に求められる環境を作り出せる。			
		43	組織内外の人たちと連携・協働できる。			
L	個人をみつめる力	44	自分自身を受け入れることができる。			
		45	人間の成長発達を理解できる。			
		46	客観的な視点で人間行動を理解し分析できる。			
M	他者とかかわる力	47	モチベーションやリーダーシップに関する専門的知識に基づいて行動できる。			
		48	他者を肯定的に理解することができる。			
		49	対人コミュニケーション理論に基づいたコミュニケーションができる。			
N	組織を動かす力	50	自分の関わる企業・組織や市場の情報を収集することができる。			
		51	他者に情報を適切に伝達する素材をつくることができる。			
		52	組織のなかで自分の立場を理解し、運営にかかわることができる。			
		53	国内外の社会情勢を理解する広い視野をもつことができる。			
		54	組織経営を円滑化する戦略的な思考ができる。			
55	さまざまな実践経験をもとに地域の人びとと連携できる。					